

(広義の)特別支援教育の対象児童生徒

**標準的な教育制度では
ドロップアウトする危険性が高い児童生徒**

に対する

学習支援の拠点形成プロジェクト

愛媛大学教育学部 特別支援教育講座

○ 中野広輔、榎木暢子、苅田知則

平成26、27年度実施：
「愛媛県下の長期入院児に対する本学学生による
訪問教育ボランティア」事業

この活動を通して寄せられた地域の教育支援のニーズ

- ①長期入院児に対する学習・余暇支援の継続
- ②退院後復学期や通院児のキャッチアップ学習支援
- ③発達障がい関連の「異才児」の個性を伸ばす教育

「異才児」とは

- ・統計学的に逸脱して高い知的機能を持つ子ども
- ・対人関係困難など、しばしば発達障がい傾向を示す



- ・類まれな才能を持ちながら、標準的な教育システムから脱落しやすい
- ・カウンセリング治療目的に通院している異才児も存在する

+2SD以上のIQ(130以上)を示す小中学生: **愛媛県に約2500人存在**

長期入院児の
学習保障

キャッチアップ
学習支援

異才児教育

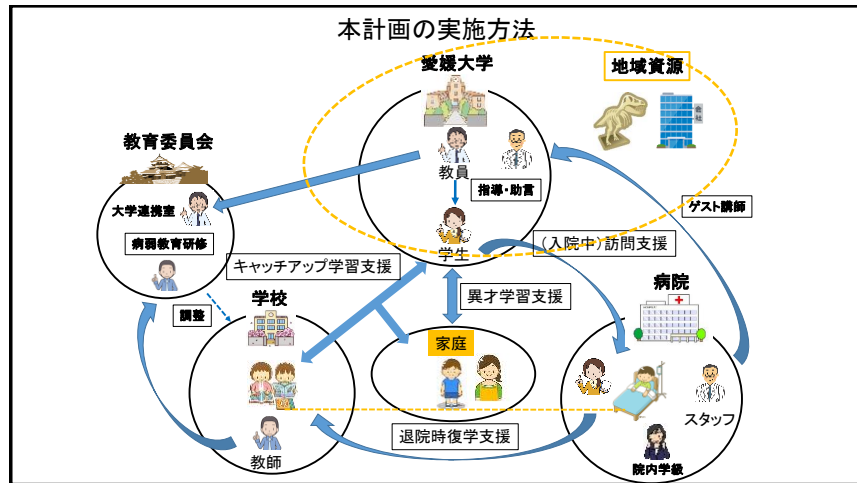
健康上の問題により標準的な教育から離脱している子ども



従来の特別支援教育対象児: 特性や教育課程の問題で、学習しにくい領域が存在



地域と連携しながら、愛媛大学が愛媛県内で学習支援する!



今年度実施中の活動

- ・長期入院児・病弱児学習支援: 継続的な活動として実施
- ・異才児や多様なニーズに対応した学習支援:
 - 不登校の発達障がい児を対象にしたプログラミング体験
 - 視線入力装置を利用した重度肢体不自由児のゲーム体験
 - 附属特別支援学校生徒に対する科学実験体験イベント
- ・健康問題に対応できる教員の養成および資質向上活動
 - 上記活動への学生及び現職教員の参加
 - 教育委員会と連携し、教員に対する「第3号研修」の実施
 - 医療機関スタッフによる本学授業への参加
 - 病院の深部にて行う大学院授業

知的障がい児を対象に開催してみよう!

(背景)
 ・通常の学校カリキュラムにはない
 ・博物館の訪問やイベントへの参加が難しい

“科学実験体験 @ 附属特別支援学校”
 (平成28年12月10日開催予定)

講師: 愛媛県総合科学博物館の学芸員2名
 支援スタッフ: 学部生・大学院生

博・学連携による特別支援教育のアクティブラーニング

